

NPO 法人 元気ファーマいながわ

生きがい・やりがいを求めてはじめた野菜作りで

社会貢献する NPO 法人



荷台に積まれた立派な白菜。根元を切り落とす手慣れた作業風景。一見農家の人たちのように見えるが、実はほとんどが元サラリーマン。農家としてはアマチュア集団、いやセミプロ集団というべきか、「NPO 法人 元気ファーマいながわ」のみなさんだ。

法人化から 10 年、地道に活動を続けて今では地元の農家さんからも認められる存在となっている。「太陽のもとで体を動かすのが健康の秘訣」という副理事長の福岡利昭さんに、畑の脇の陽のあたる特等席で NPO 法人設立の経緯や活動内容などを伺った。

始まりは猪名川町が開いてくれた「シニアファーマー養成講座」



「2006年に、団塊の世代が60歳で定年を迎えたらろくなことはない、生きがいややりがいも育んでもらおうと猪名川町が、『シニアファーマー養成講座』を設けてくれたのです」

いきなり冗談っぽく始まった福岡さんの話だが、実はこれは冗談ではなく、どこにでもある深刻な問題だ。企業でバリバリ働いていた人ほど、まだ働ける60代での現役引退にとまどう人は多いのではないだろうか。

そんななか、猪名川町が用意したこの講座は、元農業学校の先生を講師に招くなど本格的なもので、参加者の要望から、講座修了者向けに「上級講座」も開催されることになった。



NPO法人の前身である「元気ファーマ」は、講座終了後も野菜作りを続けたい人たちが集まったグループで、2008年に活動を開始した。しかし、ほどなくして「何をするにも社

会的な信用が必要」と感じ、NPO 法人設立に向けて準備を始める。設立にこぎつけたのは3年後の2011年だった。

「NPO 法人 元気ファーマいながわ」の活動

「NPO 法人 元気ファーマいながわ」はつぎの4つの社会貢献を柱に活動している。

1. 休耕地を整備・復活させて行う野菜作り。現在8軒の農家から合計約16,000平方メートルの畑を借りて運営。できた野菜は自分たちで分配するほか、「道の駅いながわ」や自治会のマルシェ、イベントなどで販売している。
2. 「野菜づくり講座」の開催（猪名川町後援）。毎年定員20名を募集。冬場を除く年間30回、毎週土曜日に、座学と実技の講習を行っている。
3. 地域の緑化・美化。主に雑草地や空き地、公園などで花を栽培している。
4. 地域交流。子どもたちに野菜の栽培や収穫の農業体験の場を提供している。



法人としての活動の理念は「生きがい、やりがいづくり」なのだという。なるほど、それがなければ続けられない、大切なことだ。

猪名川町は住みやすいまち。野菜づくりをやってみたい人にはおすすめ

自然豊かで、梅田や三宮へ小一時間で出られる便利な立地。大型商業施設や医院もあり生活はしやすいという猪名川町。

「本格的に農業をやるのは難しいと思いますが、後継者不足や高齢化した農家も多いので、農業を手伝ってくれる人が移住してきたら喜ばれると思うし、まちも活気づきます」と福岡さんは言う。



移住者にとって、よそ者扱いされないか心配だと思うがどうかと聞いてみた。

この地域はあまり閉鎖的ではない。「元気ファーマいながわ」も初めは、知らない人たちがやってきて何をしているのかと、農家さんも戸惑われたようだが、地道に一生懸命野菜作りをし、農業用水路の清掃など地区の共同作業にも参加するうち、野菜の作り方を教えてくれるなど、次第にいい交流ができるようになった、という答えが返ってきた。

近隣や地区の人たちとのお付き合いに馴染んでいく一つの形を示してくれたNPOの人たちのおかげで、これからこの町で農業をしようと移住してくる人は心強いかもしれない。そういう意味で「元気ファーマいながわ」の功績は大きいのではないだろうか。

福岡さんたちの目下の悩みも実は高齢化だ。もともと高齢者の集団ではあったが活動開始から10年が経ち平均年齢は72歳！（そうは見えない）。もし、移住して野菜づくりを本格的に楽しみたい方がいたら、ぜひ「NPO法人 元気ファーマいながわ」を思い出して欲しい。

入会したら、美味しい野菜に、元気と生きがいが付いてくること請け合いだ。



キャプション

<220127_019>

副理事長の福岡利昭さん

<220127_042>

前身の「元気ファーマ」は、活動を続けたい人たちが集まったグループ

<220127_025>

野菜は自分たちで分配するほか、「道の駅いながわ」や自治会のマルシェなどで販売する

<220127_037>

自然が豊かで梅田や三宮へ小一時間で出られる猪名川町は生活しやすいまち

<220127_050.jpg>

この日集まった「NPO 法人 元気ファーマいながわ」のみなさん